

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和4年7月28日　第17号

マイルリレ－

　世界陸上が終わりました。最近の日本選手は強くって、世界大会でも準決勝や決勝に進んでいく姿が当たり前になってきました、40年ほど前、現役の陸上選手だったころのレベルとは、ケタが違うなぁと感心しています。

　オリンピックでメダルを取ったからでしょうか、今回も4×100mリレ－に注目と期待が高まっていました。

　しかし、リレー種目で最初にメダルに届きそうだったのは、4×400m

リレ－。1人400m走り4人で1600m、1マイルが勝負の距離。通称「マイルリレー」と呼んだりします。

　醍醐味は、2番目の走者が100m進んだところでそれぞれのレーンの縛りがなくなるオープンという状態になります。前半飛ばせば最後の50mは、ばててしまいますし、最初ゆっくり行くこともなかなか難しい。コ－ナ－を曲がるときには、ぶつかるのは当たり前のこと。走る格闘技という人もいます。4×100mリレ－との決定的違いは、4人の走者が同じところ出発し戻ってきます。全力を出し切った仲間が目の前で苦しんでいる姿を見つめながら、今は知っている仲間を応援し、ドキドキしながら自分の出番を待つという時間があったりします。

　今回の世界陸上では、なんと3分を切って4位入賞。すごいなあ、と感激していると、走って選手たちはみんな「悔しい」と。中には、涙を浮かべる選手もいました。最近の選手の強さは、こんなところにあるのかとさらに感激しました。

しかし、もう一度マイル走ってみたいなあ。でも、生きて帰ってこれるかな。